

▶「行動観察」の基本（松波晴人著、ダイヤモンド社）

読み終わって、これほど我が意を得たと思える書籍も久しぶりだ。人の行動の本質を実にわかりやすく解説している。

「行動観察」とは“場”を観察して本質をとらえ、ソリューションを発想するための方法論と位置づける。それはまさに人生を学ぶ姿勢を持つことに他ならない。紹介される4つの具体的な事例も、企業の実名入りであり、大変興味深いテーマばかりだ。



私の本棚

ジェネックスパートナーズ会長
真木 和俊氏

行動観察で着目すべき重要なポイントは、モノよりも「経験の価値」にあるという。しかし経験は客観的数値データとして得にくく、対象者自身も自己認識できていないことが多い。だからこそ、分析者自らが同じ場を共に経験する行動観察が有効なのである。

過去の経験則が通用せず、皆が困っている時代において閉塞感を打破するには、起こっている事象を素直に見ることから始めなくてはならない。かつて海外で見たものすべてに柔軟に対応できたはずの日本人が、今や変化を前提としない仮説しか作れなくなってしまった、という著者の指摘には強く共感を覚えた。

この記事は寄稿元「ジェネックスパートナーズ」様および日本経済新聞社の許諾を得て転載しております。無断複製転載を禁じます。